

# 第4回「相米慎二監督映画祭り」開催記録

＜第4回＞ 魅力発信、田子に眠る映画監督

## 相米慎二監督映画祭り

日時：2017年  
**9/2 (土)**  
午後1時開場/午後1時30分開演  
場所：青森県田子町  
タブコピアンブラザホール

- 13:30 開演、主催者あいさつ、見どころ紹介
- 13:45 映画上映『シヨンベン・ライダー』
- 16:00 トークショー
- 17:15 終演

◎トークショー(来場予定) ※都合により、出演が変更になる場合もあります。あらかじめご了承ください。

**1909年** 1909生まれ、映画監督。シヨンベン・ライダーの監督として知られる。2017年、映画『シヨンベン・ライダー』で第10回日本映画監督協会賞を受賞。

**1983年** 1983年生まれ、映画監督。2016年、映画『シヨンベン・ライダー』で第10回日本映画監督協会賞を受賞。

**2001年** 2001年生まれ、映画監督。2017年、映画『シヨンベン・ライダー』で第10回日本映画監督協会賞を受賞。

**1969年** 1969年生まれ、映画監督。2017年、映画『シヨンベン・ライダー』で第10回日本映画監督協会賞を受賞。

**2016年** 2016年生まれ、映画監督。2017年、映画『シヨンベン・ライダー』で第10回日本映画監督協会賞を受賞。

**2017年** 2017年生まれ、映画監督。2017年、映画『シヨンベン・ライダー』で第10回日本映画監督協会賞を受賞。

**入場無料**

ただし事前予約する**入場整理券が必要**です。また、小学生以下の入場はご遠慮いただきます。

【入場整理券ご希望の方は下記の方法で】

① 観覧へお越しください。  
田子町役場公民館で整理券をお申し込みください。  
② 電話でご予約ください。  
8:15～17:00(土・日・祝祭日を除く)  
田子町役場公民館 映画祭り係  
電話：0179-20-7127まで。  
なおこちらの場合、入場整理券は、映画祭り当日、会場受付でお渡しします。

【入場整理券お申し込み】  
7月24日～7月31日 田子町 公民館 公民館事務所  
8月1日～一時的な休館  
●お一人様2枚まで。  
希望者多数の場合は、なくなり次第、終了となりますので、あらかじめご了承ください。

【予約方法】  
●行き→10:30八戸市庁舎集合、出発  
→10:45八戸駅西口→11:45タブコピアンブラザ到着  
●帰り→17:45タブコピアンブラザ出発  
→18:45八戸駅西口→19:00八戸市庁舎到着、解散

【お問い合わせ先】(要・事前予約)  
託児室あり

青森県田子町「町民の魅力発信事業」活用事業  
【主催：青森県田子町】  
●協賛：田子町教育委員会/公益財団法人にんにくネットワーク/田子町観光協会/映画監督相米慎二会  
●協力：青森県研 ●問い合わせ先：田子町映画祭推進課TEL0179-20-7127



たっこまち  
【青森県 田子町】

【会場・ロビー】 入場待ちの列、頂戴したメッセージや監督作品ポスター、遺族からお借りした資料などを展示しました。



【トークショー・抽選会】撮影時のエピソードや相米監督にまつわるたくさんのお話が紹介され、お客様も大満足の様子でした。



## 【お墓参り】

相米監督の令兄 相米琢磨さんと関係者の皆様で相米慎二慰霊碑へ、相米監督の眠る墓前で静かに手を合わせました。



## 【交流会】

映画祭り終了後、「映画監督相米慎二を語りつくす会」が交流会を催し、関係者と一般参加者が親睦を深めました。



町ゆかり「相米慎二監督映画祭り」

厳しくも愛情たっぷり



相米監督の思い出や撮影時のエピソードを語る河合美智子さん(左)と原日出子さん

作品出演の河合さん、原さん  
エピソード披露し感謝

**田子** 田子町ゆかりの映画監督・故相米慎二さんの魅力を伝える第4回「相米慎二監督映画祭り」が2日、町タフコシアンプラザホールで開かれた。約270人の来場者が、監督3作品目の「ジョン・ライダー」(1988年)を鑑賞し、出演した河合美智子さん(原日出子さん)のトークショーを通じて、相米監督の人柄や作品の魅力に触れた。(藤本雄大)

「セーラー服と機関銃」「魚影の群れ」など13作品を世に送り出した相米監督は2001年に53歳で生涯を閉じ、父の出身地・同町相米地区にある先祖代々の墓で眠っている。映画祭りは町が主催し、14年から毎年開いている。

「ジョン・ライダー」は、出演者がスタントなしでアクションに挑んだ、自由なエネルギーにあふれた作品。この作品で映画デビューを飾った河合さんは、暴力団に誘拐された女子大生を救出しようとする中学生「ブルース」を演じた。

上映後のトークショーでは、相米作品で助監督を務め、現在は映画監督でもある

る桜葉林大教授の唐戸耕史さんが聞き手となって、河合さん、原さんが撮影時のエピソードなどを語った。

河合さんは「トークショーの冒頭、過酷だったという撮影を踏まえ(相米監督被害者の発表です)とあいさつし来場者を湧かせた。『撮影したのは中学2年生の夏休み。その間は自分という存在がなくなっ

て、ブルースという役として生きていた。役者としてこんな経験を経てもうった相米監督に感謝していた。』と振り返った。

先生役で出演した原さんは「アクションではけがの連続。小手先が通用しない。命懸けでやらないと『OK』が出なかった。ただ、相米監督の愛情をたっぷりと感じた撮影だった」と笑顔で語った。

つたえる地域 つながる地域

相米慎二監督との思い出を語る河合美智子さん(左)と原日出子さん



町内に眠る田子ゆかりの映画監督

映画祭り 俳優の河合さん、原さん

**田子**

映画は、河合さんらが演じる中学生入りが、誘拐されたいじめっ子の同級生を救い出す。そうし、暴力団の抗争に巻き込まれてしまう物語。

当時14歳で、デビュー作となった河合さんは「このシーンも出演者が生き生きとしていて、『もっさ』をうかす、その場で生き生きしている」と紹介。

先生役の原さんは「役者は芝居を考えるが、監督はそれを壊す。考えたように見える」と延々とテストをし、最後はだ。

むき出しの感情が残ったと振り返った。

作品では激しいアクションシーンが数々登場する。台本になく、監督が現場で作り上げることも多かったという。そのほとんどを役者自身が演じた。「命懸けだった」と体当たりで挑んだ撮影を懐かしんだ。

会場には町内外のファンら約270人が訪れ、トークショーや作品上映を楽しんだ。

相米慎二作品魅力を語る